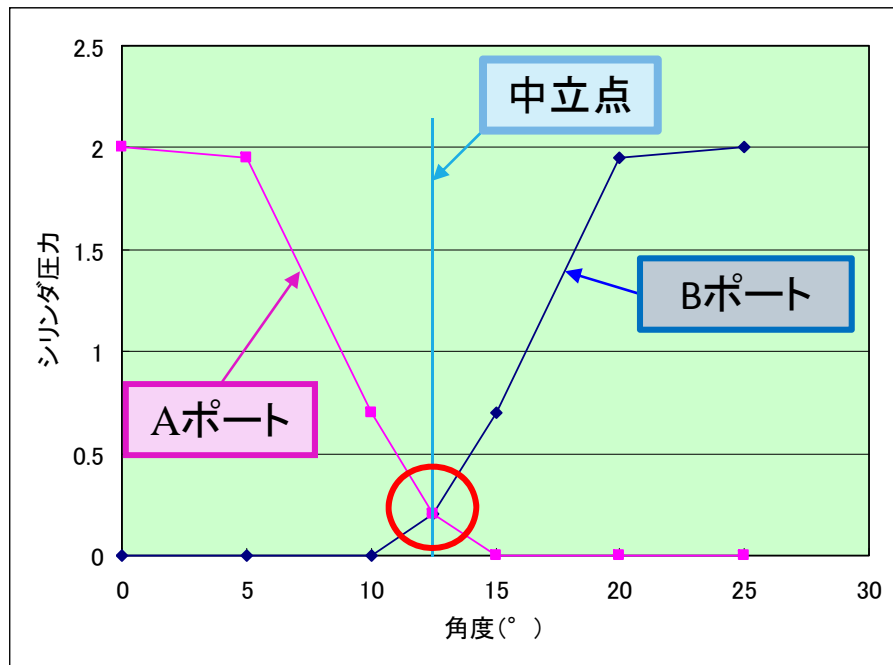
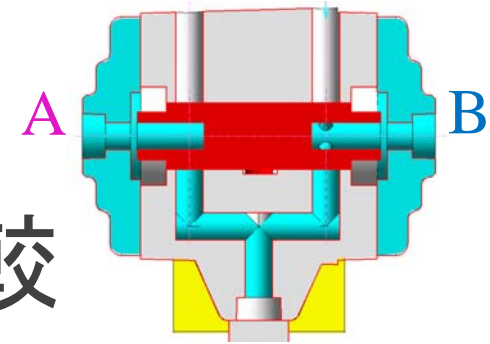


DG, WG型 検出器 作動原理

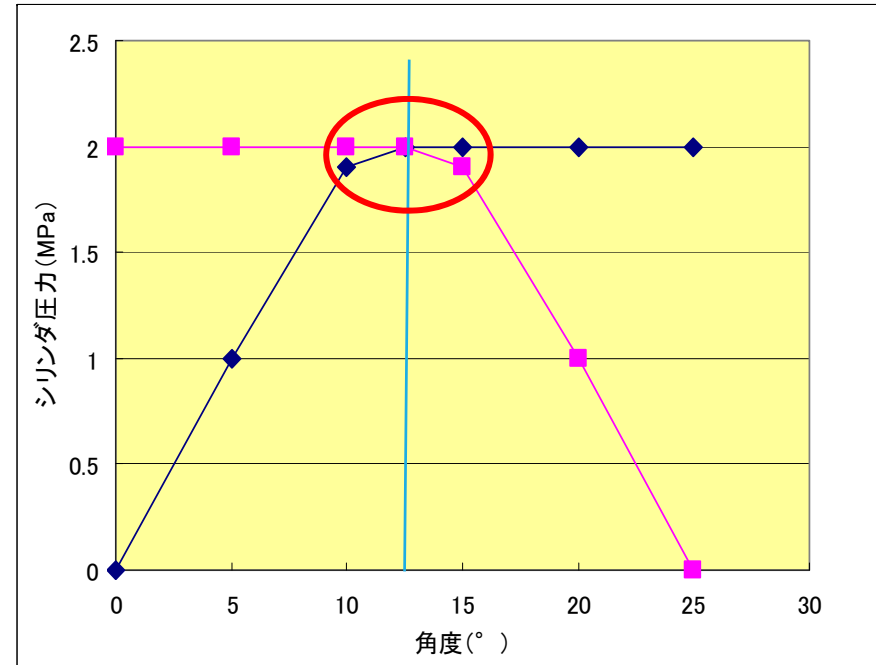
DG型	WG型
<p>① フィラーパーム15°（中立位置）の時、 エア回路はセンタークローズ、 元圧、排気は中心のロットによりクローズ位置（停止範囲は小さい）</p> <p>② パーム角度が変化（蛇行修正開始）の時 片側エア口が供給となると、反対側エア口は排気となる。 この動作が角度のプラス、マイナスにより、両側のエア口が 供給、排気と入れ替わり作動する。</p> <p>③ 作動感度、作動スピード 小さな角度変化でエア圧の変更が早い為 作動スピードは早く、高速マシンの場合はハンチング （ウェブの往復運動）が発生する可能性が有る。</p> <p>④ 検出器の取付位置 自動ガイドの下流側（出口）に必ず取付。</p>	<p>① フィラーパーム15°（中立位置）の時、 エア回路はセンターオープン、 元圧が両側エア口より同圧にて供給され、押し合っている状態 （停止範囲はDGより大きい）</p> <p>② パーム角度が変化した時 角度変化の大小により、片側より角度に応じた排気を行なう。 この時反対側は元圧が供給されている為、差圧により減圧された 方向に作動する。</p> <p>③ 作動感度、作動スピード 角度の変化に応じた減圧を行なう為、必要以上の ストローク、スピードが出ない為高速、低速どちらにも使用可能。</p> <p>④ 検出器の取付位置 基本的には、DG型と同じ下流側ですが、最悪上流側でも 使用可能です。（蛇行の程度によります。）</p>

4. 検出器の特性グラフの比較



DG型特性グラフ

エア回路: センタークローズ (加圧して制御)
 パーム角度に対する圧力変化が大きく
 高速マシンには不向き



WG型特性グラフ

エア回路: センターオープン (減圧して制御)
 パーム角度に対する圧力変化が小さく
 安定した制御が可能 (低速・高速に対応)